



波 濤

<https://hatoh.net/>

第 70 号

発 行 放送大学神奈川同窓会
編集委員会

責任者 金田 保男

発行日 2026年1月8日

会員数 508名(2025年10月1日現在)

Net 社会と人との信頼関係を考える



神奈川同窓会会長 金田保男
2025 年の夏は今迄になく暑かった一方「線状降水帯」という用語が頻繁に使われる状況となりました。2018 年の広島豪雨以降使用されるようになり、大規模な土砂災害を引き起こし注目されるようになりました。この現象はそれ以前からあり、私は 2016 年鹿児島県甕(こしき)島周辺から発達した積乱雲が鹿児島県北部の出水市に何度も豪雨をもたらした記憶があります。熱帯地方の“スコール”に似てきています。

【その後の DX の流れ】

放送大学の「教学 Vision2027」には、中期計画にあるように DX (Digital Transformation: デジタル変革) により、どんな将来を目指しているか! が謳われています。既に IBT 化 (Internet-Based Testing) (パソコンで試験を行う) 実績があり、2024 年度 2 学期からは、通信指導提出も Web で行うようになりました。デジタル化の流れは、コロナ禍以降急速に広がりを見せ浸透しつつあります。

【学習センター講義室利用上の変化】

以前は、期末試験は各センターの講義室で受けるのが当然と考えられてきましたが、自宅に居ながら試験を受ける時代になると、講義室は面接授業に必要な数(面積)を満たせば良いことになります。

神奈川学習センターのように放送大学学園所有建物の場合には急ぐことはありませんが、借用校舎の場合には一部返却し縮小方向が考えられます。学園祭のような大きなイベント開催時は窮屈になりますね。

【神奈川学習センター利用日の変更】

放送大学の学習センター利用日は、原則月曜日閉所で運用されて参りましたが、全国的には 2025 年度から閉所日週 2 日制に移行しつつあります。神奈川学習センターでは、2026 年 4 月以降変更される予定とのことです。「原則(月)(火)が閉所日ですが、面接授業日や行事により、柔軟に運用を考えている」との説明を受けています。「学習センター利用の手引き 2026 (未発行)」で確認願います。

【Net 社会と人との信頼関係を考える】

さて Net 社会になり、Net で京都大学元総長の山極壽一先生(人類学者)の記事を読んでいると、次のようなことを言われています。

“言葉によって人類が置き忘れたものがある。言葉は意味を伝えるが、意識や感情を表現するのは不得手だ。今だって、どんなに言葉を尽くしても自分の本当の気持ちを伝えることは難しいし、文字情報は勝手な憶測や誤解を招いてしまう。それは言葉が気持ちを伝えるために発達したコミュニケーションではないからだ。ネットや SNS に飛び交っているフェイクやヘイトの言葉は私たちに傷つけ、ときには誤った方向へと導く。”

信頼関係を構築するのは、臭覚や味覚、触覚といった、本来「共有できない感覚」だという。私達は学習センターに集まり、会って話すことにより信頼関係を強いものにしています。共同作業等の時触覚で確認することはありますが、「臭覚・味覚」を殆ど意識したことはありません。オンラインによる授業も万能ではない様子です。オンラインでの「つながり」は「会う」こととは違うようです。

第36回フェスタ・ヨコハマ

第36回フェスタ・ヨコハマは2025年8月30日(土)と8月31日(日)2日間で、神奈川サークル協議会の主催、神奈川学習センター後援で盛会に開催しました。

【母校との絆を深めるホームカミングデー】

8月30日の催事は神奈川同窓会と神奈川学習センターが共催するホームカミングデーでスタートしました。会場となった第4講義室では2日間とも参加される同窓生の皆さまがゆっくり寛いでいただけるように同窓会受付と休憩場所として運営し、同窓会の活動内容を紹介するパネル展示を実施しました。初日の茶話会は10時半から12時半と言う時間帯での開催となったので、軽食とお菓子を準備しお待ちしております。神奈川学習センターからは大谷センター長と清水事務長に出席していただき、40名余りの同窓生が参加し母校との絆を深め旧交を温める良い機会を提供することができ、多くの同窓生が集い和気あいあいとした雰囲気でした。参加者の方々からは「懐かしい皆様とお目にかかれまして楽しいひとときでした」「いつもお庭の草花を飾って迎えて下さり有難うございます」「元気に顔を合わせることが出来て幸せです」「心づくしのおもてなしをありがとうございました」などのご感想をいただきました。今後も定期的に開催して行きたいと思ひます。



ホームカミングデー終了後、第2講義室で5年ぶりとなるお茶席(抹茶コーナー)を開催しました。初日のお客様はホームカミングデー参加者を中心に12名の方々でした。



【坂井名誉教授の記念講演会】

翌8月31日は10時から放送大学坂井素思名誉教授をお迎えしての記念講演会からスタートしました。坂井先生は神奈川学習センター開所時から20年以上所属され私たちにご指導していただきました。演題は“社会の中の「自分とは何か」-Social Selfとは?-”で、放送大学大学院OBとともに「社会的自分史プロジェクト」を進め「社会関係自我」の形成メカニズムについて講演されました。熱の入った講演で質疑応答の時間が取れず残念でしたが、最後に感謝の気持ちを表し参加者一同から花束を贈呈し記念講演会を閉講としました。



その後、2日目のお茶席を開催しました。記念講演会講師の坂井名誉教授、原田順子教授、清水事務長など学校関係者12名の参加でした。

【コロナ禍前の内容に戻りつつある交流会】

一昨年の新型コロナウイルス感染症5類感染症移行後以前の交流会に戻りつつある交流会については、昨年は自粛したアルコール飲料の提供をはじめフェスタ・ヨコハマの名物であった焼きそばや俳句川柳大会も復活しました、昨年も好評でありましたがジャズバンドの演奏が花を添え、より一層参加者の笑顔あふれる懇親会となったことと思います。交流会のフィナーレは恒例の同窓会が担当する大抽選会です。一等賞から7等賞まで19本の賞品を準備しましたが、抽選券を引き当選番号を発表するたびに歓声のなか当選者が笑顔で受取る、フェスタ・ヨコハマの締めくくりとして大変好評なイベントでした。(木下義則)



令和7年度第1学期学位記授与式

令和7年9月28日(日)近年の猛暑にも関わらず学習を継続し、今回卒業された140名のうち46名が「放送大学神奈川学習センター学位記授与式」に出席されました。

「学位記授与式」学位記授与後、「特別表彰」2名および「名誉学生」6名の表彰がありました。「名誉学生」表彰が第1学期に学習センターで行われるのは、今回が初めてで、制度が変わった様子です。所長式辞で大谷所長からは、「支援してくれた家族の方に感謝するとともに、『大学』は自己成長の場であり、特に自由度の高い自分自分で選択し決めて行く必要があります。また一度学んだ知識はいつまでも使えるとは限りません」と挨拶がありました。



来賓祝辞 神奈川同窓会会長として私は、「今日この日は、やり通せたことの喜びを感じる方は多いと思います。ここで立ち止まって“幸せ”とは何だろう!と考えてみたいと思います。私は『幸せな状態』と『幸せとを感じる気持ち』があり、この2つは必ずしも一致しないものと感じています。

1996年パリで開かれたOECDの教育大臣級会議において21世紀に向けた教育改革の目標として『万人のための生涯学習のコミュニケ』が採択され『ゆりかごから墓場まで』のライフサイクルを包括するシステムになり、“幸せ”になる条件は整いつつあります。『生涯学習』のコツは、『三日坊主』になっても諦めず、山を登るように一步一步進みます。“幸せ”は付いてきますよ!」と挨拶しました。

桜湯お祝い

今回コロナ禍以降初めて「茶道同好会、女性役員」の協力により、“桜湯”の接待を再開し、珍しさもあり皆様喜んで下さいました。



(金田保男)

卒業生の言葉

学位記授与式で感激

副島 知子



5年前の秋に70歳から数年が経ち定年退職することになりましたが、これからの人生においても目標と生きがいを持って生活をしたいと考えていました。そして今まで心理学を少し勉強しましたが、

これからは時間を活用し基礎から勉強したいと思い、以前から気になっていた放送大学を調べました。

「心理と教育」コースがあり、自宅で自分の都合の良い時間に勉強ができ、経済的にも負担が軽いことを知り退職前に入学の手続きを取りました。また高校を卒業して何十年もたち、勉強について行けるのかとても不安でしたので、取り敢えず科目生として入りましたが、もっと勉強がしたく翌年から全科生になりました。

心理学では「認定心理士」の資格が取れる事を知り是非とも取得したいと思いましたが、それには心理学の実験面接授業を受けなければならず、若い方の中に高齢の者が一緒に勉強して何とかわれるのか不安で出来る事なら行きたく無かったのですが、資格取得のため仕方なく授業に参加したところ、回りの方々がとても暖かく年齢差も気にせず声をかけて下さり、帰りには駅まで話しながら帰りました。とても充実した面接授業を受ける事が出来てとても嬉しくなりました。次回からの面接授業でも楽しく取り組む事が出来ました。昨年秋には卒業単位が取れ「認定心理士」の資格を申請し仮資格として取得することができました。授業は世の中のいろいろな事を知る事ができとても楽しく、先生方の丁寧な説明や映像等も有り、飽きる事はありませんでした。

今では勉強した事がボランティア活動や普段の生活においても役立ち、時には勉強したことを思い出し、知識が心のゆとりと自信になっています。大学で勉強が出来て本当に良かったです。

高齢になっても勉強の機会を与えてくださる場が有り大変感謝しています。また今までご指導くださいました先生方はじめ職員の方々にも心よりお礼と感謝を申し上げます。学位記授与式に出席しとても感激しております。

第16回ミニサロン紙上発表

アートの島“直島”研修旅行記

村田カズ子



往復航空機利用、高松 1 泊
島内 1 泊で韓国語同好会の香
川県への研修旅行は 2024 年 4
月 11 日～ 13 日、7 名参加で
行いました。

高松空港到着後は空港リム
ジンバスで「栗林公園」に直行。

国の特別名勝栗林公園は公園名“栗林”ですが庭園は造られた当初から松で構成されています。総面積約 23 万坪、6 つの池と 13 の築山を巧みに配し、江戸初期の回遊式大名庭園です。1588 ～ 1640 年、生駒氏が讃岐藩を治めていた頃、川をせき止め池に造りに変え、松平頼重公が「栗林荘」(当時の名称)を整備、現在の栗林公園の形となりました。

2 日目、高松港から早朝発(四国汽船)の高速船に 30 分乗り、アートの島“直島”宮浦港に到着しました。宮浦港には草間彌生氏の水玉模様作品「赤いカボチャ」がお出迎えです。町営バスで民宿に向かい、宿泊料金支払い、荷物を整理、再び町営バスで終点のふるさと海の家‘つつじ荘’まで移動しました。つつじ荘’は直島町が設置・運営する「公設」の施設で実務は民間企業(株式会社直島アートユニット)が担っています。



「ベネッセアートサイト直島」は世界中の子ども達が集える場を作りたいと福武書店の社長福武哲彦と、教育的な文化エリアを開発したいと当時の直島町長三宅親連(みやけちかむら)9 期 36 年間在職の思いが「ベネッセアートサイト直島」の始まりに繋がります。福武哲彦の息子、福武総一郎が父親の遺志を継ぎ福武書店からベネッセコーポレーション「よく生きる」ラテン語に社名変更しました。‘つつじ荘’海岸一帯が砂浜になっていて琴弾地(ごたんじ)海水浴場、近くに崇徳上皇の歌碑と若山牧水の歌碑がありました。



若山牧水の歌碑

つつじ荘’から出発するベネッセ行きの専用バスで最初に訪れたのが島南部の美術館エリアです。「李・禹煥(リ・ウファン)美術館」、建物はコンクリート打ちっぱなしの安藤忠雄氏設計、展示作品は石と鉄を使った李・禹煥の美術作品でした。李・禹煥は大韓民国慶尚南道生まれ、来日して日本大学文学部哲学科で哲学を学び、多摩美術大学名誉教授。日本を拠点に世界的に活動、素材を加工せず、そのままの形で展示する「もの派」の美術家です。李・禹煥美術館は瀬戸内の海が見える敷地にあり、作品鑑賞後、ベネッセハウスミュージアムへ山道を上りました。



李・禹煥の作品

安藤忠雄氏設計の「地中美術館」内は自然光だけで作品鑑賞するアート作品。“絵が好き”だけではなく魂を、心を、胸が締め付けられる苦しみと喜びを味わう事ができたアート作品の鑑賞でした。

最終日、民宿から歩き、本村地区「角屋」「南寺」「きんざ」「護王神社」「石橋」「碁会所」「はいしゃ」の家プロジェクト(点在していた空き家を改修し、人が住んでいた頃の時間と記憶を織り込みながらアーティストと直島住民が協同で作品化)を見学しました。四国汽船で高松空港に戻り、羽田空港から横浜着 19:30 で研修旅行は無事に終了しました。

【第78回弘明寺サロン兼秋の行事】

「キリンビール横浜工場」及び
「生麦事件碑」見学

2025年10月30日(木)、「弘明寺サロン兼秋の行事」を実施しました。穏やかな秋の一日、キリンビール横浜工場の「キリン一番搾りおいしさ実感ツアー」に参加し、キリン横浜ビアホールで昼食、帰路に横浜市登録地域文化財「生麦事件碑」を見学しました。参加者は24名でした。

当日は京浜急行・生麦駅に集合してキリンビール横浜工場に向かいました。見学ツアー開始までの間、エントランスホール横の「ノミモノ・ラボ」で、ビール醸造や包装・容器についての展示を見学しました。

工場見学ツアーの最初はシアターに座り、横浜で創業したキリンビールの歴史やビール製造に懸ける想いを映像で学びました。その後見学通路を移動して、ビール製造の工程に従って各エリアを見学していきました。

まず「素材」エリアへ。「キリン一番搾り」の素材である麦芽とホップと水の説明後に、香ばしい麦芽の味見をしてホップの爽やかな香りのかぐという珍しい体験ができました。

次に「仕込」エリアに移動。並んでいる巨大な仕込釜をガラス越しに見ながら説明を聞いていると、突然プロジェクションマッピングが仕込釜に映し出されました。仕込の役割によって4種類あるという仕込釜のそれぞれの工程が映像でよく分かりました。「拘りの一番搾り製法」では一番搾り麦汁のみを使用しているとの事。一番搾り麦汁と二番搾り麦汁の飲み比べも出来、一番搾り麦汁の濃厚な美味しさがよく分かりました。

その後、「発酵」と「貯蔵」の工程に進みました。麦汁に酵母を加え、酵母によってアルコール発酵が行われます。その後2カ月ほど貯蔵し、酵母をろ過して透明なビールとなります。

出来たビールを容器に詰め、製品として仕上げていくのが「パッケージング」の工程です。日によっては製造ラインが休止の場合もあるそうですが、幸い当日は実際に稼働している製造ラインを見学することが出来ました。巨大な機械の中を缶が凄い速さで運ばれていき、検査洗浄された缶にビールが注がれて蓋がされ、美味しい缶ビールが出来上がりました。

ツアーの最後は、いよいよテイastingです。「ブルワリードラフトマスター」の資格を持ったスタッフが、特製グラスに「一番搾り」を注いで

くれました。出来立てのビールの味は格別で、3種類の一番搾りビールの試飲を楽しみました。スタッフからビールの美味しい注ぎ方も教えていただきました。



工場見学後、キリン横浜ビアホールで昼食をとりました。工場直送のビールや地場の材料を使った料理を味わい、初めて参加した方や久しぶりに参加した方とも話が弾みました。



キリン横浜ビアホールで昼食

キリンビール横浜工場のすぐ近くに「生麦事件碑」があります。1862年に起きた生麦事件で斬られたイギリス商人が落命したのがこの場所で、その死を悼んだ黒川荘三氏によって1883年に建てられました。高速道路の高架下にひっそりと佇む「生麦事件碑」を見学した後に京浜急行・生麦駅まで戻り、解散となりました。(安達美帆子)



生麦事件碑を見学

会員投稿

記念艦三笠の艦内ガイド顛末記

藤本 勲



横須賀の白浜海岸に日露戦争で連合艦隊の旗艦として大活躍した、戦艦三笠がコンクリートで固定されています。明治38年(1905)5月27日の日本海海戦でロシア帝国のバルチック艦隊を撃滅し世界の海戦史上例をみない大勝利に貢献しました。大正15年(1926)から記念艦として保存されています。

私が記念艦三笠の艦内ガイド補佐業務に携わったのはおりしも NHK スペシャルドラマ「坂の上の雲」が放映されている12年前でした。ドラマの効果は絶大で多くの方が来艦されていました。新米のガイドが舷門の前に立ち三笠艦内ガイドをスタートしたのです。

英国で建造された戦艦三笠は当時(1903)世界でも最新鋭の戦艦でした。まずゲストが目につく巨大な主砲(口径30cm、砲身12m)と砲弾(400kg)です。艦船の大きさ(15140トン)、性能、機能など案内します。最強と謳う大砲の威力をゲストに「砲弾の初速度と音の速さとどちらが速いか?」と問いかけ、さらに三笠の建造費120万ポンド日本円で1200万円と説明、それは明治35年度国の予算3億円の4%です。ちなみに日露戦争の戦費総額は約18億円でした。お金と戦争は重要なファクターなのでゲストが関心を寄せ傾聴してくれました。「戦争するもしないも先立つものは金だ」と私が尊敬する加藤友三郎参謀長(大正10年、21代内閣総理大臣)の名言が頭をよぎります。

艦内で一番魅力あるスポットは最上艦橋です。日本海海戦の一幕を語ります。東郷司令長官のツアイス双眼鏡にバルチック艦隊を捉えたのは5月27日午後1時55分、「Z旗」がマストに上がり戦闘態勢に入ります。2時8分、バルチック艦隊旗艦「スワロフ」が初弾を撃って



最上艦橋 日本海海戦艦橋図

きました。敵艦との距離6400mに寄せて三笠が初弾を発します。続く各艦の全砲門を集中して砲火を浴びせました。35分後海戦の帰すうは大方決していたと伝えられています。日本海海戦の戦果はバルチック艦隊38隻の内戦艦6隻を含む19隻撃沈、捕獲5隻、離脱5隻でした。

2022年4月ロシア黒海艦隊の旗艦「モスクワ」をウクライナが撃沈したとのニュースが思い出されます。論評にロシア艦隊の旗艦が沈没したのは日露戦争以来のことと記されていました。今年5月27日に記念艦三笠の艦上で日本海海戦120周年記念式典が行われました。今なおロシアとウクライナ侵略戦争は3年目に入り長期戦に移行しつつあります。

中甲板の展示室最終コーナーに東郷司令長官直筆の「連合艦隊解散の辞」が掲示されています。その結文に「勝って兜の緒を締めろ」とあります。ポーツマス講和条約締結に尽力したルーズベルト大統領が感心し英文に訳して米軍に頒布したそうです。40年後ご存知の通り太平洋戦争で日本が敗戦国になりました。歴史は皮肉な結果をもたらすものです。

戦争というもの「人間の眼は歴史を学ぶことではじめて開くものである」と半藤一利著の遺作に戦争を知らない世代へ書き残してくれています。

世界三大記念艦の一つ「三笠」に世界平和の鍵を見つけにご来艦ください。



連合艦隊解散の辞



記念艦三笠 舷門

会員投稿

福島県浜通りフィールドワークに参加して
—除染土処分状況と大熊町の今—

金田保男

放送大学福島同窓会では、「猪苗代湖」の水質調査や「東日本大震災後の復興状況の歩み」の確認をフィールドワークとして行っています。今回は福島以外の同窓会への呼び掛けにより参加させていただきました。そして大熊町の除染土（2025年9月、再生に活用できるものを「復興再生土」に呼称変更）の「中間貯蔵施設」の状況を見学しました。

〔大熊町産業交流施設 CREVA(クレバ) おおくま研修および「おおの駅」付近復興状況〕



産業交流施設 CREVA

大熊町の玄関口・JR おおの駅に隣接した産業交流施設「CREVA(クレバ) おおくま」施設内には中間貯蔵事業情報センター（環境省）があり、東京電力福島第一原子力発電所の事故により影響を受けた環境を再生するための取組の紹介を受けました。当該地区を見渡した处、おおの駅、写真のCREVA(クレバ) おおくま、更に隣接した大きな病院の3棟の建物以外には四方建築物は見当たりませんでした。なおCREVAの手前の広場は地中に「中間貯蔵施設」として除染土を保管し人工芝で覆っています。

説明によると、大熊町の震災前人口は約1万人で、2025年9月現在は約800名うち帰還者は約200名とのことですが、駅から離れた場所に戻って来たものと思われます。

〔帰還困難地域および放射性物質の管理〕



立ち入り禁止区域

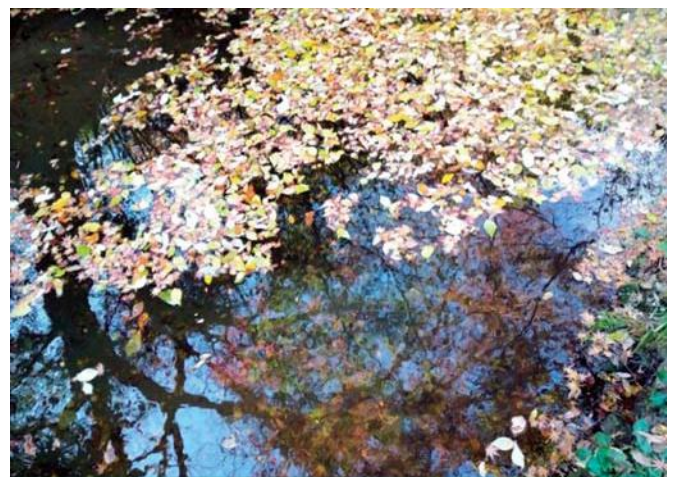


中間貯蔵施設覆土工事

おおの駅から車で15分位の場所には、「立ち入り禁止区域」が残っています。放射性物質廃棄物は環境や人体に悪影響を及ぼす可能性がある為、安全に処理し適切な管理が必要です。半減期が数十年におよぶ放射性物質の管理は、人が何代にも亘る継続管理が必要です。

会員投稿写真

私の横浜三景 渡邊久江

山下公園から大さん橋の客船を眺める
(2023年春)釜利谷市民の森から横浜横須賀道路の金沢
自然公園 IC 付近を見渡す (2024年秋)大岡川源流地域へ行く途中の水面に浮かぶ
葉っぱたち (2024年秋)

社会貢献活動のお知らせ

神奈川同窓会では社会貢献活動として、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンを通じて、海外の教育や環境改善のために、現在 6 人の子ども達への交流・支援を行っております。

南米・エクアドルの Johanna は、この 1 年、家族も含め健康に問題なく過ごすことができました。中等教育を受けており好きな科目は数学とのことです。Johanna は、プランの登録終了の基準年齢である 18 歳が近づきつつあります。登録終了まで手紙による交流を続けてまいります。



8 月 30・31 日に行われたフェスタ・ヨコハマでは、2 日間とも放送大学叢書・バッジ販売を実施しました。放送大学叢書シリーズには、今回のご講演者である坂井素思名誉教授が執筆された「貨幣・勤労・代理人」があり、多くの皆様にお買い上げいただきました。この「貨幣・勤労・代理人」は、坂井名誉教授の以前の放送授業科目である「経済文明論」をもとに、先生ご自身により大幅に書き換えられたものです。

今回の叢書の販売利益は、必要経費を差し引いた額をあしなが育英会へご寄付させていただきます。

今後とも、皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。(田代和嘉)



事務局だより

《新入会者ご紹介》

2025 年 7 月 25 日発行の『波濤』69 号掲載以降の新入会員は下記の通り 2 名の方々です。心より歓迎申し上げます。(敬称略)

鹿内 淑子

副島 知子

《お願い》

住居移転のあった方や、Mail アドレスを変更された方は、次のいずれかの方法でご連絡をお願いいたします。

- ① 放送大学神奈川同窓会のホームページから。
「入会案内」をクリックし「申し込みフォーム」に、変更後の住所またはメールアドレスを記入し、連絡事項にその旨記入して送信。
- ② メールの方は下記アドレスへ。
E-Mail:0025457082@campus.ouj.ac.jp 木下 義則
- ③ ハガキの方は下記住所へ。
〒232-0061 横浜市南区大岡 2 丁目 31—1
放送大学神奈川学習センター内
神奈川同窓会 木下 義則

「名誉学生」のお知らせ

令和 7 年度第 1 学期は神奈川学習センター所属の 6 名の方が「放送大学名誉学生」の称号を取得されました。おめでとうございます。

編集後記

気象庁によると 2025 年夏(6 月～8 月)の気温は、北・東・西日本でかなり高く 1946 年の統計開始以降、それぞれ夏として 1 位の高温となったようです。このような大変暑い夏でしたが 8 月末に行われたフェスタ・ヨコハマ(学園祭)では他のサークルが屋外で焼きそばを作り、神奈川同窓会では 5 年ぶりに「お茶席」を復活しました。9 月 28 日の「学位記授与式」では桜湯の接待を再開。10 月 30 日は秋の行事として、「キリンビール横浜工場見学」を実施しました。今号にはこれらの記事も掲載しています。(佐藤 敬)